

1 開催日時 令和6年6月13日(木) 13:40~14:55

2 開催会場 本校校長室

3 参加者

- 三ツ本 隆 様 (地域学校協働活動推進員)
- 松井 志夫 様 (三好丘緑区長) 河北 圭一郎 様 (三好丘桜区長)
- 伊藤 正彦 様 (ひばりヶ丘区長)
- 中馬 肇子 様 (元PTA副会長・読み聞かせミルキーポケット会員)
- 川瀬 志乃 様 (前PTA会長) 落合 美紀 様 (前PTA副会長)
- 三宅 敬子 様 (現PTA副会長)

※ 上田 光宜 様 (現PTA会長) 山田 隆夫 様 (三好丘緑いきいきクラブ会長) は欠席

(学校側) 校長 江上 俊郎 教頭 前川 直子

4 日 程

- (1) 授業参観 13:40~14:00
- (2) 協議会 14:00~15:00
  - ・ 教育方針等概要説明 (校長)
  - ・ 協議、承認

5 協議内容等の報告

(1) 教育方針等概要説明 (別紙「令和6年度第1回学校運営協議会報告・協議資料」参照)  
 テーマ「つながる」

令和5年度に成果の見られた活動を継続しつつ、①~⑤に示した活動について改善や新たな取組を行っている。

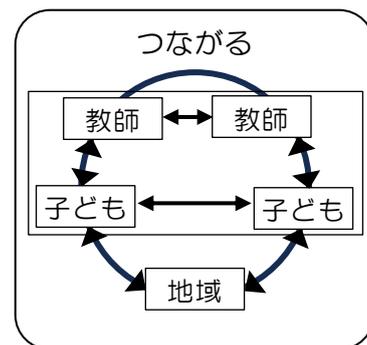
① 子どもの笑顔のために【授業】

- ・ 級友の「分からない」「困っている」を生かした授業づくり
- ・ 学校生活や学習活動で、「分からない」「困っている」を伝える力を育む
- ・ ペア、グループで対話をしながら学び、認めてもらえるうれしさと受け止める優しさを価値付ける取組
- ・ 仲間と解決しながら、学びを深める「ジャンプ問題」に挑戦し、人との関わり方や受け止め方という力を育む
- ・ 一人一人の子どもを多くの眼で見守り、支える教科担任制の継続
- ・ SDGsを柱とした総合的な学習の時間を計画し、地域とつながり学びを深める

② 子どもの力を生かした教育活動

- ・ 上級生の「自己有用感」、下級生の「目標づくり」につながる異学年交流の取組
- ・ 1年間を見通した委員会活動

「なかよし集会」子どもが主催する集会を計画、卒業生とのつながりを計画



③ 家庭・地域との連携による教育活動

- ・ 五感で学ぶ豊かな体験 3年「柿畑見学」 5年「田植え」
- ・ 地域の方を講師とした正課クラブ活動（8クラブ、年9回）
- ・ 地域での挨拶が課題であるが、まずは学校に来ていただいた地域の方に挨拶する経験を積み、自信につなげる
- ・ 中庭の畑を地域の方に担当していただき、関わる機会を設定

④ 家庭・地域の笑顔のために

- ・ 授業支援などのボランティアを全家庭に配信（きずなメール、ホームページ等）
- ・ 草刈りの会、中庭畑活動を行政区回覧にて呼びかけ
- ・ PTAによる学用品リサイクル品の回収・無料提供への移行

⑤ 職員の笑顔のために

- ・ 家庭と連携したICT機器の有効活用
- ・ 家庭、学校が学びの森専門相談員とつながり、教師もよりよい指導方法を学ぶ

(2) 協議内容 ○：評価できる内容 △：気を付ける点、今後の課題やアイデア

〔地域とのつながりⅠ〕

○ 畝づくりをして、子どもたちが苗を植えたことで、どんどん育っていく様子、その様子をうれしそうに観察する子どもの姿が見られる。

△ 成果はよく分かったが、課題、学校の困り感はどのようなものがあるか。

⇒ 地域の方々をつなげるためには、募集、連絡や調整、打合せの時間を確保する必要となり、教職員にとっては、時間的な負担が生じている。これらを担当する立場の人員を増やすことによって、もっと活動が増えていく。

地域にみえるさまざまな人材を教えてほしい。

△ 学校は外部から入りにくいところであるので、多くの方に周知するとよい。行政区の回覧や行政区だよりを活用すると、人材の募集につながる。学校から働きかけてほしい。周知の頻度を上げ、キャッチフレーズとして「ふらっと草刈り」「ふらっと畑仕事」「ふらっとボランティア」という感覚で、学校が地域に開かれていく。

△ 共働きの家庭も多く、なかなか時間が取れない人も多いが、まずは一部の人が参加し、継続していくことで広がっていく。地域には、仕事をリタイアしたがまだまだ意欲的に動くことができる人もいる。やりたい人が、きっかけがなく動き出せないため、地域できっかけづくりをつくることができると考える。

△ 地域の人材確保のきっかけづくり、児童生徒の安全確保のための通学路の安全点検など、学校だけでは解決できないことを行政区が協力して、地域も一緒に問題解決をしたい。行政区にも、問題点や課題を教えてほしい。

〔地域とのつながりⅡ〕

△ コロンバス市からのホームステイを受け入れたが、小学生の子は関われない。英語科という学習の形ではなく、気軽に触れ合う機会がほしい。

△ 外国語の学習でタブレットを活用して、つながるとよい。時差の問題もあるので、アジア圏も視野に入れてみてはどうか。

△ 地域には、多くの外国人が在住しているので、日時場所を決めて、そこに行けば関わることができるということも可能である。ただし、これに係るボランティアが必要となる。この活動によって、興味がわく。実現のためには、行政区に在住の外国人の方々への声かけも必要となる。

〔子どもの居場所づくり〕

△ 部活動が地域に移行し、子どもの居場所がなくなった。放課後子ども教室は、保護者が部活動に求めているものとは違う。部活動で一つのことに對して切磋琢磨して目標に向かって進んでいくこと、一人ではできないこと、人とぶつかることなど社会に出てから必要な学びの場である部活動だと考えていた。何か部活動に代わる場を考えてほしい。

⇒ 今後、放課後子ども教室（サッカー、バスケットボール）を計画しており、交流試合もある。（市教委長谷川主事発言）

校内での活躍の場、さまざまな人との関わりの場を増やすことは、現在取り組んでいることであり、意識していきたい。

△ 保護者が働いており、暑さもあり、ゲームに依存していることが残念である。夏季休業中のプール解放のような活動できる場所があるとよい。

△ 緑集会所で、中学生を対象に、朝9時から5時まで一番大きい部屋を開放して、自主学習に取り組めるようにする。常にスタッフはいるので、小学生に対しても可能ではあるが、中学生と部屋を分ける必要はある。学校でも、教室を開放できると、ご両親が働いている家庭は喜ぶが、管理する人材確保に課題がある。

〔地域とのつながりⅢ〕

△ 市の取組にも目を向け、積極的に活用していくとよい。

△ 緑行政区、約900世帯、約3000人、3割程度の方が行政区だよりを読んでいる。全体が無理でも、1割の人が知ってくれて動き出せば、広がっていく。行政区が協力的になっているので、一緒に進めていきたい。

- ・ 協議では成果とともにさまざまな課題やアイデアも提示していただいた。全員一致で本校の教育方針、グランドデザインについて承認していただいた。

6 第2回学校運営協議会日程

令和6年10月24日（木） 13：40～14：55

7 添付資料

- ・ 学校運営協議会要項
- ・ 「令和6年度第1回学校運営協議会報告・協議資料」